

*** 井上四郎資料 5 (井上四郎氏著書：天文小話)**

井上四郎氏のお孫さんからいただいた資料の中に井上四郎氏の著書が1冊ある。それは、井上四郎著「天文小話」財団法人 科学知識普及会発行である。写真1がそれである。



写真 1

この本は、大正15年に一般向けに天文の啓蒙書として書かれた。井上氏による序文は以下のようで、大正期の天文学のおかれた状態を知ることができる。

自序

近年時勢の要求につれて、我国では従来余り顧みられなかった科学方面に人の注意を惹く様になってから、工業に、通信機関に、軍器に、其の他に、長足の進歩発展を見る様になった。然るに独り天文学に至っては依然旧時の状態にあつて、専門家以外には、星の出没さへ知るもの稀なくらいであるのは、極めて遺憾とするところであつたが、近時天文学に関する会が俄かに台頭して此所彼所に生まれる様になり、また、一方には専門家の著書が可なり多く見受けられる様になったことは、斯学普及のため誠に悦ばしいことである。

著者素より浅学菲才、今こそ専門家の末席を汚している様なものの、素人あがりのものが本書を編するなどとは、甚だ僭越の限りであるが、実は数年前から、科学知識普及会の御依頼に応じて、「科学知識」のために天文に関する記事を執筆した関係から、今般それらを骨子として、素人のための天文書編述の御すすめに接して謝絶し難く、新たに旧稿を整理し加筆して、その上に新しき企をも加えて天文全般に亘っていないのは已むを得ない事である。

併し本書には著者が数十年の間、肉眼又は望遠鏡で天体を観測した経験を少しばかり書加えてあるから、読者諸君の多少御参考ともならば幸福である。

大正 15 年 7 月 20 日

三鷹村の東京天文台官舎にて

著者誌す盈

また、この本の章立ては以下の通りであり、そこに書かれた題目は、その時代にはどのように考えられていたのかと、つい手にとって読みたくなるものである。

目次

口絵 太陽の紅焰 月の噴火口コパーニクス 土星の写真
エルクス天文台の 40 吋望遠鏡 年中各月の天図(1)～(6)

第一 太陽系

1. 太陽（太陽の大きさ、距離、光熱、太陽面に存在する物質、太陽の構造（1. 光球、2. 反彩層、3. 紅焰、4. 白光）、太陽の自転、太陽の黒点（1. 黒点と太陽活動周期、2. 黒点の大きさ、3. 形状、4. 変化、5. 渦状運動、6. 黒点の発生、7. 黒点の温度、8. 磁気嵐と極光、9. 黒点は強気磁場）、太陽は変光星、太陽の将来
2. 惑星、
3. 水星（水星の大気、水星の自転、水星の盈虚、太陽面通過）
4. 金星（太陽面通過、大気、自転、気候、生物の有無）
5. 地球、
6. 火星（火星の衛星、火星の白斑と運河、不思議な運河、雪、植物帯、気候、大気成分、生物はいないか）
7. 小惑星（ボーデの法則、特異小惑星、小惑星の光度及び大きさ）
8. 木星（雲状帯及び大赤点、自転、大気、衛星、光の速度の発見）
9. 土星（土星の環、環の構造、環の形状、自転、土星の状態、衛星）
10. 天王星（自転、衛星）
11. 海王星（海王星の発見、衛星）
12. 海王星より遠き惑星（未知の O 惑星、惑星と彗星、彗星の捕獲、未知の P、Q、R 惑星）
13. 月（地球から見得る月面は 59%、満月の光、月面の模様、山嶽、噴火口、大亀裂、不思議な白條紋、大平原、月は寂莫たる世界、月面温度）

第二 日食（日食の数、日食の限界、サロスの周期、一サロス間に起きる食の数、食の種類（1. 皆既食、2. 金環食、3. 部分食）

第三 月食（月食の数、地球の影、月食の現象、月食の限界、皆既中でも月は見える、皆既中月面は銅色を帯ぶ、月食の用途）

第四 彗星（周期彗星、無周期彗星、彗星の構造、大彗星、小彗星、尾は太陽の反対側に向ふ、彗星の変動、彗星の光輝、質量と密度、成分、彗星の捕獲、彗星群、彗星と流星、群との関係、獅子座流星雨、ペルセウ座流星雨、彗星の搜索法）

- 第五 流星（一昼夜に空気内に突入する数、一昼夜に於ける出現の増減、一年間に於ける出現の増減、ペルセウス座流星群、獅子座流星群、アンドロメダ座流星群、流星群は彗星の分離物及び壊散せるもの、流星の観測法（輻射点の発見法、流星観測の注意）
- 第六 火球（隕石－隕鉄、火球墜落の場合、天降石を構成する物質、天降石の外観、天降石の起源）
- 第七 星座（星座の覚え方、星座の表）
- 第八 新星（1572年の新星、1604年の新星、1866年の新星、1901年の新星、1918年の新星、1920年の新星、1925年の新星、新星のスペクトル、ウルフ、ラへ星）
- 第九 天文学と写真術（天体写真儀、小惑星の発見法、彗星の発見法、衛星の発見法、新星の発見法、星の位置及び光度の測定、変光星の発見法、太陽分光写真）
- 第十 天文学用観測器械（望遠鏡、赤道儀、子午儀、子午環儀、経緯儀、天頂儀、分光器、分光写真儀、分光太陽写真儀）